

2012年03月08日

トヨタ、フィリピンにおいて生産累計50万台を達成

トヨタ自動車(株)(以下、トヨタ)のフィリピンにおける生産及び販売事業体であるトヨタ・モーター・フィリピン(Toyota Motor Philippines Corporation 以下、TMP)は、フィリピンにおける累計生産台数が今月にも50万台を達することを記念し、本日、ラグナ県サンタロサ市の同社サンタロサ工場内で記念式典を行なった。

記念式典にはフィリピン政府のコロマ大統領広報業務担当大臣を来賓に迎え、トヨタの岩瀬隆広専務、TMP菅田道信社長らが出席。岩瀬専務は、「フィリピンの皆さんと一丸となって高品質のクルマづくりを進めてきた。この度、生産累計50万台達成を迎えることができ、政府、お客様、ご支援頂いた地域の皆様に心から感謝している。」と語った。

TMPは、1988年に設立され、1989年2月からクラウン、カローラ等の車両生産を開始。2011年には、イノーバやヴィオスを合計約26,000台生産した。

トヨタは、「トヨタグローバルビジョン」において、新興国を重点取り組み分野の一つとして位置づけている。今後も、各地域で「お客様の期待を超えるクルマづくり」を行い、お客様の笑顔をひろげていくとともに、「いい町・いい社会」づくりへ貢献していく。

【TMP概要】(2012年2月現在)

会社名	フィリピントヨタ自動車株式会社(Toyota Motor Philippines Corporation)	
設立時期	1988年8月	
事業概要	車両の製造・販売等	
所在地	ラグナ県サンタロサ市	
代表	社長 菅田 道信	
株主構成	メトロ銀行グループ:51%、 TMC:34%、 三井物産グループ:15%	
資本金	1,549百万ペソ(約30億円)	
従業員数	約1,500人	
生産拠点	工場名	サンタロサ工場(本社隣接)
	面積	敷地 778千平方メートル、建物36千平方メートル
	生産開始	1997年1月(旧工場から移転)
	生産車種	イノーバ、ヴィオス
	生産能力	年間25千台(2直定時)

以上